

三翠化学

(題字は稲川先生)

第72号

令和5年10月31日 発行
三翠化学会
津市栗真町屋町1577
三重大学大学院生物資源学研究所内
電話 / (059) 232-1211
振替 / 00890-1-59345
印刷 / 株式会社 あるむ
TEL (052) 332-0861 大8 長谷川 正一

会長の職を引継ぎ

木村幸信 (大25)

令和四年度の総会におきまして会長の職を仰せつかりました。博學多才な歴代会長の能力、輝かしい経歴に比べ、大いに見劣りすることお恥すかしの限りですが、他の執行部の方々に力不足をお助けいただきながら、時間だけは死ぬほど(死ぬまで)ありますので、本会の運営に高齢者の自由時間を捧げる所存です。できれば本会の永続的発展・隆昌にすこしでも寄与したいところではございますが、会員の皆様のご協力・ご指導なくしてはそれも叶いません。歴代最も頼りない会長です。ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

杉崎前会長が急逝され、以来会長不在のまま執行部グループで会務を回してきていたのですが、未だにこれといった新たな企画、行事などを遂行するに至っていません。奇しくも本年は三翠化学会設立五〇周年にあたり、杉崎前会長もどうやって記念行事を遂行していくか、頭を悩ませておられました。三年余続いたコロナ禍で、社会そのものが活性を失っていたため、盛大な記念行事も内外からブレイキを踏まれる状態であったことは否めません。そのような最中に設立五〇周年を迎えた本会も、記念

パーティーなどで大いに盛り上がりたかったのですが、早々にパーティーなどは行わないことを決定しておりました。本紙面の別欄で五〇周年記念事業に關しては触れますが、豪勢・盛大とは程遠い中身になっています。この際五〇年の歴史を振り返り、甚だ地味ではありますが新たな五〇年への第一歩を踏み出したいと存じます。ご理解いただければ幸いです。

同窓会活動に対しては、以前から卒業生にとつてどんなメリットがあるのか? という疑問が投げかけられ、会運営側はいつも苦しいコメントを行っているように見えます。同窓会本来の目的は、あくまでも母校の発展に資することにあり、現世利益的な、参加者へのメリットが先に出てくるものではないと思います。会員の人的資源をもって、母校の発展という目的を果たそうとするものだと思います。人的資源を最大限活用するためには、個の力だけでなく、集団の力—あわよくば組織の力—を呼べるものを獲得することが大事だと思えます。クラス会では横のつながりを継続していくことができます。そこに縦のつながりを強化して組織を作り上げる……同窓会とはそのようなものではないでしょうか。

現在、縦のつながりを強化すべく、関東、関西、東海の各支部において、地域の卒業生が世代を越えて集まれる場として総会・懇親会活動を行っています。また本部としては、総会・懇親会を行う以外に、年一回以上の会報発行を行い会員に配布を行うというのが主な活動となっていますが、縦のつながりの強化には、会員各位が本部または支部の集まりに参画していただくという、ちよつとしたハードルが存在するように思います。私自身ももとは、先輩に無理やり引つ張り込まれて総会に参加したような記憶があります。横と縦のつながり強化で組織が強くなるほど、個人に対する現世利益も増すことと請け合いです。同期も先輩も後輩も利用できます。それができる組織こそ同窓会、三翠化学会だと思えます。そして、母校の発展に寄与するのです。どうか会員の皆様、催しへの参加・参画という形でお力添えをお願いいたします。個としても集まりとしても。

令和5年度同窓会総会・懇親会のお知らせ

令和5年度総会および懇親会を別記の通り行います。多数の会員のご参加をお願い致します。今年度はコロナ禍明けということで、設立50周年の記念すべき年であるにも関わらず、早期からの催行計画が立てづらく、講師を招請しての講演会や一泊旅行を兼ねた盛大な宴会も予定しておりません。通常の総会のあと、移植になった「三翠化学の樹」お披露目をささやかに、懇親会をこれまたささやかに予定しています。

会員の皆様方におかれましては、同期のお友達や普段からのお知り合いの誘い合つてのご参加をぜひご検討ください。総会・懇親会は「クラス会のゼロ次会」程度の感覚でご利用いただいても結構です。まずはお一人でも多くの会員各位に総会・懇親会へのご出席をお願い申し上げます。

放送大学で学んでみませんか?

梅川逸人(院14)

私は三重大学を定年退職後の二年間、参与・特命副学長として引き続き三重大学にお世話になった後、本年四月に放送大学三重学習センターの所長に就任いたしました。放送大学の名前をご存じの方は多いと思いますが、放送大学がどのような大学かあまり知られていないと思います。その放送大学のご紹介をさせていただきます。

本年放送大学は設立四〇周年を迎え、現在までの学生数は累計で一八〇万人以上です。千葉市に本部を置き、全国五七ヶ所にキャンパスがあります。現在の学生数は約八七、七〇〇名で女性が五二%と男性よりやや多い状況です。三重学習センターは三重県総合文化センター内の三重県生涯学習センター棟四階にあり、約七〇〇名の学生さんが在籍しています。放送大学の名前を聞いたことがない方も、ぜひ一度学んでみることをおすすめします。学部の入学試験はなく、書類で入学できます。入学のチャンスは四月と一〇月の年二回あり、短大卒や高専卒の方は編入学が可能です。学部は教養学部教養学科の一学部一学科のみの単科大学で、幅広い分野を学べるよう六つのコースが用意されています。これには最近マスコミ等でよく言われているリスキリングが関係しているのではないかと思います。

放送大学は英語名の「Open University of Japan」が示すように、学んでいる人も、学びたい人も、学ばななやうな人も、すべての「学びたい」にOPENで、必要な科目のみ一科目から学べます。学部の入学試験はなく、書類で入学できます。入学のチャンスは四月と一〇月の年二回あり、短大卒や高専卒の方は編入学が可能です。学部は教養学部教養学科の一学部一学科のみの単科大学で、幅広い分野を学べるよう六つのコースが用意されています。これには最近マスコミ等でよく言われているリスキリングが関係しているのではないかと思います。

設立五〇周年記念事業

その1 記念植樹

三翠化学会設立一〇周年を記念して、植樹されたケヤキが正門近くに大きく育っていました。四〇年を経過した今年、大学キャンパスのレイアウト変更のため、立ち退き(伐採)を迫られました。せつなく四〇年間育ててきた記念樹をただ伐採し新たに五〇周年記念植樹を行うのは忍びないと、三翠化学会学内役員が大学側と交渉の末、新たな場所への移植を行える運びとなりました。伐採の整地の期限に合わせ、さる二〇二二年一月二三日(金)、総合研究棟IIの旧農学部学生実験室北側への移植を完了しました。突然の移植決定で、「根回し」作業

やや多い状況です。三重学習センターは三重県総合文化センター内の三重県生涯学習センター棟四階にあり、約七〇〇名の学生さんが在籍しています。放送大学の名前を聞いたことがない方も、ぜひ一度学んでみることをおすすめします。学部の入学試験はなく、書類で入学できます。入学のチャンスは四月と一〇月の年二回あり、短大卒や高専卒の方は編入学が可能です。学部は教養学部教養学科の一学部一学科のみの単科大学で、幅広い分野を学べるよう六つのコースが用意されています。これには最近マスコミ等でよく言われているリスキリングが関係しているのではないかと思います。

放送大学は英語名の「Open University of Japan」が示すように、学んでいる人も、学びたい人も、学ばななやうな人も、すべての「学びたい」にOPENで、必要な科目のみ一科目から学べます。学部の入学試験はなく、書類で入学できます。入学のチャンスは四月と一〇月の年二回あり、短大卒や高専卒の方は編入学が可能です。学部は教養学部教養学科の一学部一学科のみの単科大学で、幅広い分野を学べるよう六つのコースが用意されています。これには最近マスコミ等でよく言われているリスキリングが関係しているのではないかと思います。



移植される前の「三翠化学の樹」



移植された後の「三翠化学の樹」

我々三翠化学会を重ね合わせるのはいささか強引なこじつけでしょうか。我々はこの木を「三翠化学の樹」と呼び、今後さらに五〇年一〇〇年と成長を続けていくことを期待しています。なお、今年度総会のあと

その2 会報バックナンバー(一号から七〇号)のweb公開

三翠化学会五〇年の歩みを具体的に知るために、今までに発行された会報「三翠化学」のコピーを、一号から七〇号までweb上で公開します。

画像があまりきれいでなくて残念なのですが、何人かの先輩が大切に保管されていた会報を借り受け、家庭用のスキヤナを用い手作業でコピーしたものです。画質に関しては、そのおかげた努力に免れお許しください。

https://sansui.bio.nie-u.ac.jp/kagaku/kagaku.html

しを、現役の方には仕事で必要なスキルを身に付けるなど様々なステイジやタイピングでの学びが可能です。放送大学の詳しい内容はホームページをご覧ください。どうか、三重学習センターにお越しただければ、ご説明させていただきます。どうかよろしくお願い致します。

放送大学三重学習センター
〒五一四一〇六一
三重県津市一身田上津
部田一三三四
三重県総合文化センター内 三重県生涯学習センター棟四階
TEL: 〇五九一-二三三二一七〇
FAX: 〇五九一-二三三二一七九
〒514-1061
mie@ouj.ac.jp

第一七回三翠化学会関東支部総会・懇親会を開催

講演会・懇親会を開催

関東支部支部長 吉田吉明(大18)

第一七回三翠化学会関東支部総会・講演会・懇親会を、令和五年三月十一日(日)一時から、日本橋室町の三重テラス・イベントスペースで開催しました。

コロナ禍のため、前回の第一六回総会は、令和三年三月にメール登録者のみに発信して書面での報告を行い、翌年の令和四年の交流会については、三重高等農林学校として発足し三重大学生物資源一〇〇周年の記念の年でもあり開催を計画しましたが、中止にせざるを得ませんでした。役員会としては、記念の年の令和四年度内に第一七回総会を何とか開催したいということで、三月開催にむけて準備してきました。コロナ禍で参加者が少ないことが予想され開催が危ぶまれる状況でしたが、一三名の参加を頂いたことで開催を決定することとなりました。結果として、梅川先生の講演の

内容、先生を囲んだ懇親会も大いに盛り上がり、参加した皆さんが「やって良かった」と評するほど成功裏に開催することができたと思っております。以下、その概要について報告します。

東海副支部長(大19回)の総合同司会のもと、先ず、蛭雄副支部長(大27回)から開催案内と回答、参加状況について報告があり、吉田支部長(大18回)の開会挨拶のあと、総会に入り、東海副支部長が議長をつとめ議案の審議を行いました。

第一号議案は吉田支部長から令和三年四月〜令和五年三月までの支部活動などの報告を行いました。例年の支部委員会は八〜一〇回開催しており、前年度はコロナ禍の影響で六回でしたが、今年度は更に減り四回の開催となりました。主な審議内容は、交流会と支部総会の講演会、懇親会などの企画や進め方の検討が中心です。次いで、第二号議案の会計報告が、平田副支部長(大20回)から、併せて中島監事(大22回)から監査報告がありました。第三号議案は任期満了に伴う役員改選の件ですが、いずれの議案も了承されました。

役員の改選については、三翠化学七号「飯田さんを偲ぶ」の記事で紹介しましたが、昨年二月に飯田徹也氏が亡くなり、また家庭の事情で丹羽副支部長が退任することになったため、後任に、酒井和好氏(大34回)をお願いすることになりました。吉田支部長、東海、平田、蛭雄、別所の各副支部長、中島監事が再任され、新たに副支部長に選任された酒井さんに加え、七名の体制で運営することになりました。

恒例の講演会は、大学から梅川参与・特命副学長にお願いいただき、三重大学生物資源一〇〇周年記念として「三重大学生物資源学部・研究科の歩みと今の活動状況」と題して、質疑応答も入れて一時間半にも及ぶ内容でした。三重高等農林学校から三重大学農学部、そして生物資源学部、学科の改組の沿革について、農林学校の所在地の地図や第一期生の卒業アルバム、昭和七年頃の津自動車株式会社が運行した高農行きバスの写真などを織り交ぜ紹介、初めて見聞きした内容もあり、参加者も驚きの声が続きました。

大学の今の活動状況については、国立大学農水学部の学生定員二六〇名は全国で五番目であること、サテライトなどハブ機能の強化、地域社会とのつながりの重視、三重大学のDXとデータサイエンス教育の強化の一環で、数理・データサイエンス館の開館などが紹介され、現在の三重大の存在感と強みをあらためて感じることができた。素晴らしい講演会でした。梅川先生には、急なお願いで、お忙しいなか本当に感謝申し上げます。

講演会の後、集合写真の撮影後、懇親会の場所である「吉倉 日本橋三越前店」に移動し、別所副支部長(大26回)の進行のもと、鈴木潔(大9回)の乾杯の発声で、懇親会が始まりました。

今回の総会で、梅川先生の故郷の津の同期生との再会のハプニングがあり、また、先生の経歴や飯田故人の思い出も含めた近況報告、そして、参加者全員の近況報告、講演内容や大学時代の話題で大いに盛り上がり、店の配慮で予定の二時間を超えた懇親会はあっという間に過ぎました。コロナ禍で懸念はしていましたが、その場の雰囲気や「三翠応援歌」の大合唱となり、第一七回三翠化学会関東支部総会・講演会・懇親会を終えました。

来年は交流会(第九回)の年ですが、三〜四月に開催に向けて準備を進めていきますので、多くの方の参加をお願いします。



最後に、今回の総会・講演会・懇親会の出席者を紹介させていただきます。
梅川逸人(大学参与・特命副学長)、鈴木潔(9)、亀山幸輝(12)、小島橋彦(15)、長島貞武(15)、高瀬敏(18)、吉田吉明(18)、東海裕作(19)、西出祐次(19)、平田友良(20)、中島亨(22)、別所明(26)。

紙面を借りて、関東支部の運営上の課題について紹介したいと思います。一つは、以前は、往復葉書で総会・交流会の案内を出していましたが、前々回から、メールアドレスが分からない方、高齢者を中心に葉書で案内していましたが、その後も返信率が低く、全員不参加が続きましたので、前々回からメールアドレスの登録者のみの案内としております。今後もコストのこともあり、支部総会・交流会の案内、情報・連絡事項などの対応は、原則メールでしたいと考えています。

現在、メール登録者は一〇八名ですが、未通信の方も多く、メールアドレスの確認も必要になっていきます。現在、住所が登録されている方は二五名となっていますが、現在登録の住所と三重大学三翠同窓会の名簿の照合をしたらうえて、再度往復葉書で案内し、メールアドレスの確認を行う作業が必要と考えています。

また、登録の居住範囲については、一都六県を原則と考えていますが、検討課題です。二つ目は、令和元年に生物資源学部平成三〇年第一五回卒業の一名が参加しましたが、生物資源学部に改組されて以来、新しい方が名簿に登録されていないことです。このたび学科の改組がありましたので、住所登録と支部総会・交流会の案内への対応が検討課題です。

また、現在の関東支部でも大学三〇回以降の卒業生の参加が少なく、特に定年を迎えた方の参加を促す取り組みが必要だと思っています。当面はこの課題の方が緊急かもしれません。支部総会や交流会に参加して頂くことで、支部の活性化を図れるのでは

令和5年度三翠化学会総会のご案内

日時 11月18日(土曜日) 10:30 受付開始
場所 三重大学生物資源学部大会議室
総会 11:00から12:00
懇親会 三重大生協 パセオ 12:30から14:30
懇親会費 5000円
同封したハガキで、総会への出欠や近況などをお知らせください。ご連絡お待ちしております。

東海支部報告

三重県支部(三重県にお住まいまたは勤務の三翠化学会員)の皆さまへ

三翠化学会木村幸信会長より、東海支部の懇親会に三重県支部からも参加したいとの要請がありました。東海支部では三重県支部からのご参加をもう手を挙げて歓迎いたします。

東海支部では、年に三回ほど、平日の午後もしくは夜に名古屋市内のホテルに

あるレストランでバイキングを楽しみながら、懇親会を開催しています。懇親会では、旧交を温めるのももちろんのこと、近況報告として、最近の病気の話が増え気味ですが、出版された本の披露、企画や参加されているセミナー、講習会のご紹介など、日頃

の活動を広げる場として活用される会員もいらっしゃいます。ここ数年はリタイア組の参加が多く、異業種交流の場としての利用は減っているのは事実ですが、現役世代が参加して下さることで、以前のように自然と支部の活性化が図れるのでは

ないかと期待しています。東海支部では経費削減のためメールアドレスにてご連絡を差し上げております。今後懇親会への参加を希望される方は、下記メールアドレスまでご連絡をお願いします。

次回(第九回)の開催は、令和五年三月十一日(日)一時から、日本橋室町の三重テラス・イベントスペースで開催いたします。

本報告がお手許に届く頃にはすでに開催日過ぎてはいるはずですので、この機会にぜひメールアドレスを登録してください。皆さまのご参加をお待ちしております。

東海支部事務局アドレス
mailto:sansui-tokai+manager@googlegroups.com

プラザホテル グランコート名古屋

支部組織の一部見直しについて

三重県支部の発展的解消と東海支部との統合による、新たな東海支部に

昭和58年に設立された三重県支部は、近年活動実績をたどることができなくなっており、運営がスムーズにできていない状況でした。新たな支部会員の入会もできず、三翠化学会員の新規入会者の、おそらく大多数が所属されるはずの三重県支部がこのような状況なので、「三重県支部会員」であるべき方々の居場所が、実質的に失われていました。会員相互が顔を合わせる場が三翠化学会本体の総会以外には存在しない状況となっていました。

もともとは、三翠化学会員の三重県庁職員(県庁支部)と県内中・高・大教職員(教員支部)を母体とし、東海支部に所属していた一般企業勤務等の県内在住会員を東海支部から分離し編入して興したのが、三重県支部の起源でした。現在、現実的には失われてしまったのも同然で、所属会員そのものが不明な三重県支部を復活させるよりは、活動を継続している東海支部に三重県在住・在勤者を編入させていただくほうが、連絡通信手段等を配慮しても、より有効かつ活性化の見込みがあるのではないかと、新生東海支部の再編を、酒井東海支部長に検討をお願いしている次第です。

酒井支部長には、現在新生東海支部の規約作りへのご協力をお願いしています。次号の会報でご紹介できる予定ですが、規約の文言に関わらず、まずは一人でも多くの方々(従来の東海支部会員、三重県支部会員)が、気軽に話し合える場に参加いただくことから新生東海支部の活動は始められると思います。まずはアクションからと、三重県支部の皆さん(三重県在住・在勤の三翠化学会員)にも、東海支部の恒例行事である懇親会への参加を認めていただくことを、酒井支部長に要請いたしました。とにかく同窓生が顔を合わせることが

できる場面をセットするところからのスタートです。三重県の皆さんはぜひ第一歩を東海支部の懇親会参加からスタートしてください。同期、近い年代などの方々が、連れ立って参加されること、大いに結構です。東海支部長ともどもご参加をお待ちしています。

三翠化学会 会長 木村幸信

第二三回三翠化学会 関西支部交流会報告

西本和実 (大33)

コロナ禍の影響で、令和二、三年は開催を見送りましたが、三年振りとなる第二三回三翠化学会関西支部交流会は、長年にわたり関

西支部の活動にご尽力を賜り、令和元年にご逝去された、嶋林幸英先生を偲ぶ会として、令和四年十一月二日、ご来賓として三翠

化学会会長の木村幸信氏(大25)、三重大学名誉教授の久松眞先生(院8)にご出席を賜り、さらに三重県支部からも伊藤眞氏(大25)、中北隆也氏(大27)のご出席をいただき、ホテルクライトン新大阪にて開催いたしました。

第一部は関西支部総会で、冒頭に物故者に黙祷を捧げました。次いで伊藤支

部長(大21)の司会で総会に移り、三翠化学会会長の木村氏よりご挨拶を賜り、三翠化学会本部の現状と各支部の活動状況報告及び今後とも活動への支援についてご協力をお願いしたいとお話しを伺いました。その後、伊藤支部長からは令和二、三年度の活動報告、西本会計(大33)の会計報告、伊藤支部長による



会計監査報告が行われました。最後に、今回は二年毎に実施されている役員改選に当たっており、伊藤支部長より、幹事全員の再任が提案され、いずれも満場一致で承認されました。

第二部は恒例の談話会で、今回は、久松眞先生より、「嶋林先生の思い出」と題して、同志社大学時代に担当の教授から嶋林先生を紹介いただいたこと、三重大では研究生時代から長年にわたって嶋林先生にお世話になったこと、大学改革で農学部と水産学部の統合に向けて動いていることが報告されました。小

川副支部長(大30)の司会で懇親会は進み、来年の再会を約して交流会はお開きとなりました。

末筆になりましたが、令和六年には関西支部が設立四〇周年を迎えるので、この機会に、改めて支部交流会へのご参加を呼びかけます。

最後に今回の出席者を紹介し、報告とさせていただきます。

久松眞(生物資源学部名誉教授、院8)、木村幸信(三翠化学会会長、大25)、渥美泰延(大7)、谷中国昭(大13)、古橋雅巳(大19)、伊藤哲雄(大21)、山口政行(大22)、伊藤眞(三重県支部、大25)、服部正之(大27)、中北隆也(三重県支部、大27)、浅井以和夫(大27)、堀英一(大28)、関小田弘(大28)、岩田将司(大29)、北村智(大30)、小川悦代(大30)、中浦守浩(大35)、田宮敏昌(大36)、岸田吾一(大36)、植村祐光(大37)、西本和実(大33)(敬称略)

第23回三翠化学会 関西支部交流会のご案内

日時：令和5年11月11日(土) 午前11時から
 場所：ホテルクライトン新大阪
 談話会特別講師：荻田修一氏(三重大学生物資源学部教授)
 最新の知見に触れ、三翠化学の同窓生と楽しく語り合う絶好の機会です。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

三翠化学会関西支部 支部長 伊藤哲雄(大21)

関西支部は昭和五九年(一九八四年)第一回総会が開始され、平成一三年(二〇一一年)から名称を支部総会から交流会に変更し毎年開催を重ねてきました。コロナ禍の二年間は、さすがに開催中止となりましたが昨年には交流会を再スタート致しました。毎年の交流会開催に際しては、ご講演を引き受けていただいた先生方やOBの皆様が多大なご協力があったので、心より御礼申し上げます。

関西支部の立ち上げには、嶋林先生(大2)のご

尽力によりスタート致しました。交流会の開催に際しては、嶋林先生から多くのご助言を頂きながら現在に至りましたが、先生は令和元年(二〇一九年)一二月に帰らぬ人となりました。その後起こったコロナ禍のため、交流会開催を中止としてきました。やっと、昨年(令和四年)の秋に第二三回関西支部交流会を「嶋林先生を偲ぶ会」として実施することができました。交流会では、学生時代の研究で嶋林先生から叱咤激励を受けたエピソード、

就職活動でお世話になった逸話や先生が頑張っていた野球クラブでの活動話など、敢しかつた事や楽しかった事など参加者の方から多くのお話を聞くことができ、懐かしい時間を思い出す機会を得ることができました。

最近では、関西支部の交流会に参加する人数が増え、いのが問題になってきました。元気があった頃の嶋林先生からも指摘を受け、頭を悩ませている次第です。同窓会組織は、学生や先生そして社会で活躍中の皆様にとって、関心の高い領域の情報や最新の知見を共有できる絶好の機会だと思っています。私自身も卒業後は

企業の研究開発職に長年従事し、その企業にとって新規事業の多くにかかわってきました。その際には、多くの先輩や友人に助けられたものです。新たに挑戦しようとする分野において、すでに広く仕事を行っている社外の人達にとっては当たり前前の事柄でも、初めてスタートする我々にとっては全く不明なため、その一つ

一つを知るのに多くの時間と労力をかけることが多々あります。例えば電気電子分野の研究時、文献や学会での資料に記載されている単純な分析方法でも、ユーザーとの分析値の一致は一〇〇%とならず、せいぜい九〇〜九五%ぐらいが普通です。学会や文献発表なら十分に使える数値ですが、ユーザーに売り込むと

きは5%の差は大きな問題となり商品化につながらないことが度々あります。またテストプラントを動かしていた時の数トン単位の廃液の処理方法、医療分野での開発に頭を悩ましていた時の競合品の販売数量や市場サイズなど分からないこと等は、先輩やその友達に聞くことで解決することがありました。新しい仕事を

進めるうえで、社外に聞くことができる先輩や友人の存在は大きな武器となったものです。同窓会はこのような場を提供できる場所と考えています。

今年度も十一月一日(土)に第二三回関西支部交流会を開催することとしております。当日は、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

●令和四年度 卒業生就職・進路先●

- | | | |
|--------------------|------------------|------------------|
| 愛知県庁 | 新日本空調株式会社 | 株式会社フジインコーポレーテッド |
| 天野エンザイム株式会社 | 住友電装株式会社 | 物産フードサイエンス株式会社 |
| アピ株式会社 | 太陽化学株式会社 | ホーユー株式会社 |
| 株式会社アルジャンスー | タカラバイオ株式会社 | 三重県庁 |
| 井村屋株式会社 | 築野食品工業株式会社 | ヤマモリ株式会社 |
| 株式会社かね貞 | 東洋ビューティ株式会社 | 四日市市役所 |
| 岐阜県庁 | 日本コーンスターチ株式会社 | 理研ビタミン株式会社 |
| 一般財団法人 | 株式会社浜乙女 | Mipox 株式会社 |
| 食品分析開発センター SUNATEC | 学校法人 | WDB 株式会社 |
| 三栄源エフ・エフ・アイ株式会社 | 浜松海の星学院 浜松聖星高等学校 | |

(順不同)

「地域共創プラザ」のオープン

令和5年5月8日に「地域共創プラザ」がオープンしました。地域共創プラザ内には、生協の第一食堂が設置され、明るく広い食堂になりました。食堂の他にもイベントを開催できる多目的室や、学生が集まってミーティングなどに活用できるスペースも2階に設置されています。旧第一食堂は現在改修工事を進めており、学生のクラブ活動やサークル活動の拠点となるようなスペースとして生まれ変わる予定です。

地域共創プラザの建設にあたり、総工費7.5億円のうち、2.3億円は卒業生などからの寄付による三重大学振興基金のお金が活用されました。先輩方の母校への思いにより、後輩となる三重大学の学生にとって、より良く大学生活が過ごせる環境が整備されております。



国道23号側より見る三重大学

新正門の設置

これまでの正門では、自
動車、自転車、歩行者が同
時に利用しており、授業開
始前の朝の時間帯など、安
全性に問題が生じていまし
た。そこで、正門から生物
資源学部校舎に至る道路の
幅を広げ、歩行者、自転車、
自動車の道路を分離すると
ともに、国道二三号側へ歩
道と自転車道を伸ばして、
歩行者と自転車は二三号線
側から直接大学構内へ入れ
るように、新しい正門が令
和五年七月一九日に誕生し
ました。新しい門の横には、
駒田前学長の揮毫による
「三重大学」の看板も設
置されました。近隣の土地
の購入と建物の移転などの
工事を終え、三重交通バス
の「三重大学前」バス停の
あたりが広くなり、見違え
るようになりました。二三
号からも大学がよく見える
ようになりましたので、国
道を通られる方は、ぜひ、
ご覧ください。



新しい正門

山田哲也先生を偲んで

久松 眞 (院8)

山田哲也先生は、令和四年七月二四日にご逝去されました(享年八五歳)。新型コロナウィルスが流行る少し前のことですが、三翠同窓会総会前に開催された化学会の総会にご出席いただき我々は少し驚かされました。「久松君、忍者の研究で頑張ってるんだね、テレビで見ているよ」と久々に耳にするお元気な声をお聞きしたばかりなので、この訃報の連絡はあまりにも突然のことでした。

私は学生時代三年と教員時代一五年の計一八年間同じ食品化学研究室で山田先生には大変お世話になりま

した。お年も丁度一回りの違いで同じ鼠年だったと記憶しています。私が学生の頃研究室の教授は滝基次先生でした。滝先生は、ウルチ種とモチ種のトウモロコシにハイアミロ種の遺伝子を交配法で移し新しい物性をもった澱粉作りに取り組んでおられたことから、私の修論は品種間の澱粉構造を比較する研究テーマでした。山田先生は名古屋大学の博士課程で行っておられたお茶の葉の配糖体等の研究を三重大学でも継続されていましたが、分子レベルで澱粉の構造研究ができることを知ってこの分野の研究にも興味を持たれ、新しい澱粉の加工や活用に関する研究を精力的に進められ多くの学生の研究を指導されました。

山田先生は専門書や論文を超高速度で読破し、それらの内容を正確に記憶する能力が特に優れておられたので、先生の情報量の多さからくる研究指導法は独特なものがありました。逆に指導を受けた学生達は、当初は研究手法の理解が容易でないため苦労するの



ですが、卒論や修論等の発表となると不思議なことに研究結果が生まれていて悩んでいた学生とは信じられない元気な姿で発表していました。このような山田マジックは今も思い出されま

長いお付き合いの中で研究室のドライブ旅行も印象に残っています。観光ルートは博士の山田先生にすべてお任せでしたが、今思うと研究と同様に深い洞察力で考えられた旅行目的と



昭和30年頃の「三重大学前」バス停付近



正門の新設とともに生協の食堂も新しくなり、地域共創プラザとなりました。

令和4年度 卒業研究タイトル (紀要掲載の許可タイトルのみ)

- ・振とう培養に対応した微生物熱測定装置の開発
- ・グアイフェネシン誘導体の合成と皮膚透過性の評価
- ・Paracoccus sp. JM45 が生産するエキソ型アルギン酸リアーゼ AlyPC の酵素化学的研究
- ・線虫 C. elegans を用いた Kaempferia parviflora 抽出物に含まれる運動機能改善作用物質の探索
- ・環状ペプチド PF1171B の生物活性と膜透過性の関係の解析と高活性類縁体の創製
- ・農作物のマルチバンド光センシングに関する基礎的研究
- ・小豆抽出物の成分分析とリパーゼ阻害作用の検討
- ・EGC と EGCg の卵巣摘出マウスにおける骨粗鬆症への関与に関する研究
- ・ヒロヘリアオイラガ幼虫分泌液「PIL-3」の TRPV1 活性化部位とその立体構造
- ・カプシド F タンパク質に変異を導入した φX174 の調製方法の検討
- ・ダイズに含まれる γ-オリザノールの探索
- ・スクロースの育晶工程に及ぼす高周波照射の影響
- ・Echinicola sp. 20G が生産するウルバンリアーゼ UlyECB と UlyECA の発現系の構築
- ・ブリ魚醬・濃口醤油の血小板凝集抑制効果の検討
- ・小豆ポリフェノールがコレステロール吸収に与える影響
- ・非還元末端残基が LDmanHep の Salmonella Typhimurium 型リポ多糖の作製
- ・動物細胞ゲノムにおける外来 DNA 配列挿入部位の特定
- ・Clostridium paraputrificum におけるピルビン酸からアセチル CoA への代謝経路と水素ガス生産に関する研究
- ・老化状態から逸脱した細胞における染色体異数化パターンの解明
- ・BSES 法における β-グルコシダーゼの局在が及ぼす糖化への効果
- ・カイコ幼虫の麻痺を引き起こす環状ペプチド PF1171F の標的分子探索
- ・バイオマス成形体の高周波誘電加熱併用真空凍結乾燥特性の把握
- ・Clostridium paraputrificum のカタボライト制御に関する因子についての遺伝学的解析
- ・伊勢湾から単離したラビリンチュラ類が分泌する細胞外酵素の分析
- ・抗菌活性ペプチド microphorusamide 類の構造活性相関研究—クロロトリプトファン残基の塩素原子位置の検討
- ・ソルガムの搾汁液に含まれる trans-アコニット酸の分離・回収法の検討
- ・カフェ酸由来 γ-オリザノールの探索
- ・Paenibacillus xylanoclasticus 由来 GH11 キシラーゼ (Xyn11B) の特性
- ・イオントラップ型 OrbitrapLC-MS を用いたゴマリグナン類の分析法の検討
- ・ハナビラタケに含まれる DPPH ラジカル消去物質の探索
- ・古紙の酵素糖化に及ぼす前処理や添加物の効果
- ・Aurantiochytrium sp. へのエレクトロポレーション法を用いた遺伝子導入法の確立
- ・メチオン欠乏が老化細胞のヒストンメチル化状態に及ぼす影響
- ・ワインモデルの蒸散成分に関する赤外分光特性把握
- ・小豆味噌の成分分析と抗酸化作用の検討
- ・小豆に含まれる抗酸化成分の抽出条件の検討